

# ビデオ 通信

2012年  
12月3日(月)  
No.3638

毎週月・木曜日発行  
1ヶ月 ¥11,550 (税込)  
発行：飯澤剛  
編集：齋藤浩一、齋藤知香

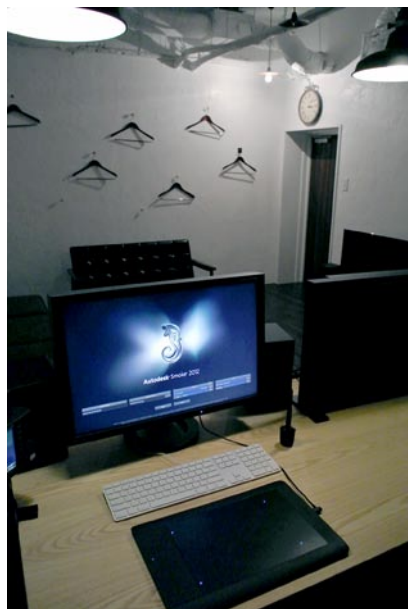
**ユニ通信社**

東京都千代田区神田司町 2-10  
神田司町国土ビル 2F 〒101-0048  
TEL : 03-5256-1521  
FAX : 03-5256-1525  
E-mail : vt@uni-press.net

サウンド・シティ

## Smoke 導入のコンセプト編集室オープン Smoke 2013 への移行見据え、Flame Premium 等とすみ分け フットワークの良いアンティーク調「Edit 7」

(株)サウンド・シティはこのほど、エディトリアルフィニッシングソリューション「Autodesk Smoke」を導入した編集室「Edit 7」(写真→)を同社地下3階に新設し、11月から本格稼働を開始した。「Edit 7」は内装や家具・備品をアンティーク調で統一した落ち着いた雰囲気の編集室で、オフラインからオンライン編集まで可能なコストパフォーマンスの高い編集室として訴求していく。最新バージョン2013の正式リリースを間近に控えたSmokeについて、現行のSmoke 2012 for Macで導入し、2013がリリースされ次第バージョンアップする。ノードベースでのコンポジティング機能が搭載されるなど、ビデオ編集とエフェクトの統合化が進む2013に移行することで、Flameを中心にビジュアルエフェクトを得意とするハイエンドポストプロダクションとして、他社のSmoke編集室と比較して優位性を訴求する。さらには“コストパフォーマンスとフットワークの良い編集室”というコンセプトを打ち出すことで、社内のFlame Premium編集室×3室ともすみ分けを図っていく。



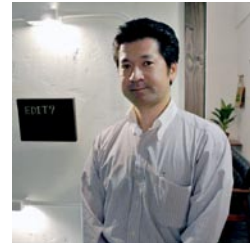
### ハイエンドポストプロが展開する Smoke 編集室

営業部課長の福田嘉和氏は〈現状のコンテンツ制作市場では、オフライン～オンライン編集の連動など、フットワークの良いワークフローがコストパフォーマンスを含めて求められています。高機能/ハイコストパフォーマンスで、ジックリとクリエイティブに集中できる居住性を備えた編集室がEdit 7のコンセプトです〉とする。

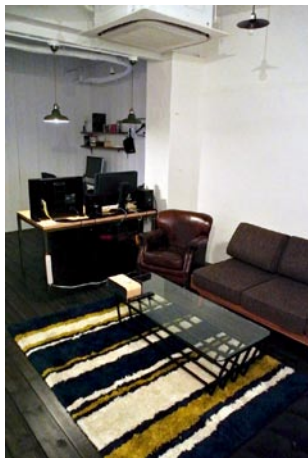
Smokeについて、ポストプロダクション技術部 部長の井口信吾氏は〈ハイエンドのポストプロダクションとして、もっと敷居の高いような編集室にすることも可能だったかもしれませんが。コストも下がり、導入しやすくなったSmokeですが、ハイエンドシステムのFlame Premiumと一線

を画すことで、逆に自由度の高い取り組みができたと考えています。今回の Smoke 編集室新設は、リリース間近の Smoke 2013 に向けた準備といった意味合いもあります。ノードベースでのコンポジティング機能など、より Flame ライクになる Smoke 2013 の活用については、Inferno/Flame でビジュアル エフェクトのノウハウを培ってきた我々にこそ優位性があるのだと考えています。Smoke 2013 をより有効に使える引き出しの多さにアドバンテージがあるはずです」としている。

同社では、地下1階の Edit 3 について2012年1月に、それまでの Smoke から Flame Premium に変更しており、Smoke のノウハウも有している。福田氏（写真下）は「CM のフィニッシング作業においても Smoke で充分可能という作品も数多くあり、Smoke の機能については不安はありません。また、多くの予算を割くことは出来ないがクオリティが求められるような作品などにも適しており、受けられる作品の幅も広がると考えています」とする。11月の正式稼働からビデオコンテ、VP、ミュージッククリップ、CM など、多様なジャンルの編集作業を受注しているという。

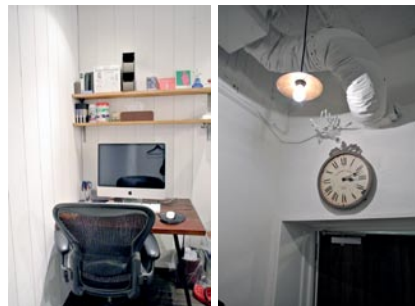


### ソファや備品までアンティーク調で統一



Edit 7 は、MA / レコーディングフロアの地下3階にオープン。内装をアンティーク調で統一した落ち着いた雰囲気編集室となっている。編集卓前方にクライアントスペースを設け、毛脚の長い絨毯とアンティーク調のソファを配置したほか、冷蔵庫や時計、照明などの備品まで全てを“古い洋館のイメージ”としている。天井についても吹き抜けとし、開放感のあるシックなデザインで、編集卓後方にはサブ PC を設置したアシスタントスペース、制作スタッフのデスクも配置している。

スーパーバイザーの東原広宣氏は「アシスタントスペースでは Final Cut Pro や Adobe CS Production Premium などの並行作業も可能です。さらに、プリ編集室として運用している Edit 6 の After Effects や Flare との連携も可能など、作品に最適なワークフローが提供できていると考えています」とする。



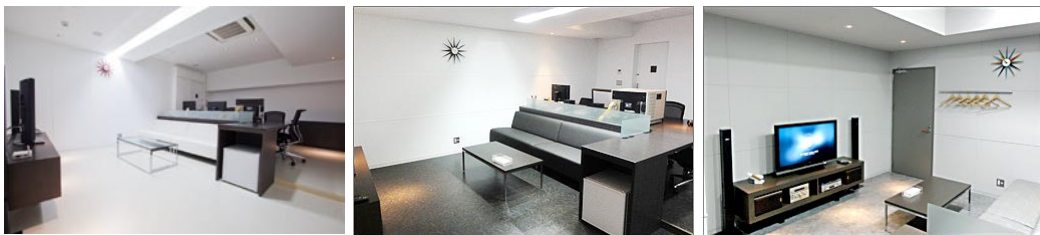
アシスタントスペース（左）とアンティーク調の時計

### 編集システムと人材を強化

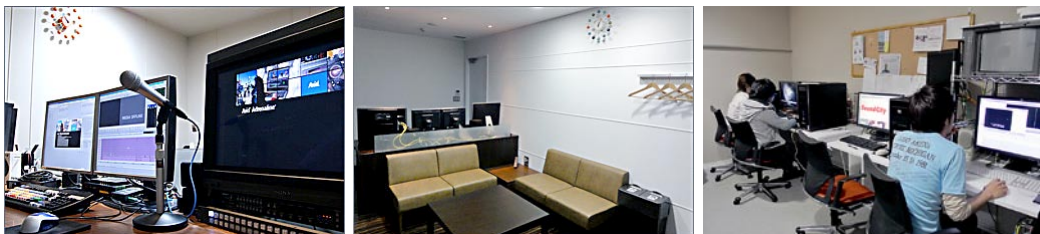
サウンド・シティでは今年、編集システムの強化を行った。Autodesk システムで運用している Edit 1/Edit 2/Edit 3 の3室は Flame Premium に変更したほか、プラットフォームの更新、Stone ディスク容量の増強を行った。また、人材面ではエディターについて、新卒のほか経験者の採用などを行って大幅に増員した。

◇(株)サウンド・シティ

東京都港区麻布台 2-2-1 TEL03-3586-5101 <http://www.soundcity-w.com>



左から、Flame Premium の Edit 1 / Edit / Edit 3



Avid 編集室の Edit 4 (左) と Edit 5

Edit 6



東原広宣氏

井口信吾氏